岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

1 自己評価

_1 =				
1 学校:	教育目標		かで、次の教育目標の達成に とともに、創造的思考力を育 不撓不屈」(校訓)の精神を 字を守り、正しい行動ができ 業業観を身に付け、すすんで 人間を尊重する精神を育成す 惟し進めるなかで、中学校と かな心の育成」を図る。	努める。 成する。 育成する。 る能力と態度を育成する。 自己実現を図る態度を育成 る。 のさまざまな交流を通して
2 スクー	ール・ポリシー	『育 たい生徒 像』 で たいポリシー (GP) 「不 たいポリシー (GP) 「不 持って たいポリシー 未 で はっした といった は かった は かった 生 に かった し に い に かった し に かった し に い に い に い に い に い に い に い に い に い に		

3	評価する領域・分野	
4	現状の分析	 ○保護者2 お子様はよろこんで学校に行っている。83.1→77.1→83.6 ○保護者31 学校は、基礎学力の定着を図る取組に積極的である。66.2→64.2→68.4 保護者は以前の状況を知っており、よくなったことを肯定的にとらえてくれている。 ▲生徒2 本校に入学できてよかったと思っている。91.2→89.7→83.8 ▲生徒7 熱心に学習指導・生徒指導に取り組んでいる先生が多い。92.5→92.6→88.1 ▲生徒8 専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。89.0→90.4→79.2 ▲生徒10 授業の教え方や説明がわかりやすい先生が多い。88.5→90.4→79.2 ▲保護者14 教職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる。76.0→72.9→69.1 ▲生徒16 本校は、基礎学力の定着を図る取組に積極的である。90.7→89.3→84.2 現在の生徒は入学前から本校に対するイメージが良く、「面倒見がよい」ことに期待して入学している。そのため、入学後の評価が上がりにくい。生徒の期待する「面倒見のよさ」を提供できていない可能性がある。教員配置上、1年生が3クラスとなってしまったり、少人数クラスが合併されたり、「面倒見のよさ」が発揮できない状況が発生している。
5	学校の抱える課題	◇落ち着いている状態が当たり前となり、生徒や保護者からの期待値が上昇している。◇「面倒見がよい」という期待にどこまで応えるか、どうやって応えるかが問われている。
6	今年度の具体的かつ明確な 重点目標	 ◇確かな学力の育成 ○少人数授業、習熟度授業を積極的に実施する。 ○「自学自習ノート」の取り組みを推進し、家庭学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。 ○家庭や地域に連携及び協働を求め、学んだことの意義を実感できる教育活動を行う。 ○生徒の授業評価、及び教員相互による授業見学を年2回実施する。 ◇共に生きる力の育成 ○登校時の校門指導において、遅刻防止と身だしなみ確認を促す。

- ○毅然とした態度での指導を心がけ、生徒の規範意識を醸成する。 ○生活アンケート(年3回)・教育相談週間及び全ての教育活動を通して生徒の声に耳を傾 けて生徒理解に努め、いじめのない学校を目指す。 ○学校行事や地域行事、ボランティア活動に参加する機会を与える。 ◇自立する力の育成 ○3年間を見通した進路指導計画に基づき、キャリア・パスポートを活用しながら卒業後の 進路希望に応じた進路指導を学年にあわせて行う。 ○2年生全員のインターンシップを実施し、望ましい勤労観や職業観を育成する。 ○総合的な探究の時間やLHRの時間を活用し、社会に貢献できる人材育成を行う。 ○進学希望者に学校見学会や進学ガイダンスを行い、進学目的をもった生徒を育成する。 目標の達成に必要な具体的な取組 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 1学年4クラス展開、習熟度別授業、少人数クラスが実現す (1) 教員配置の希望と現実 るよう要望を伝える。毎年授業見学会と授業研究会を開催する。 (2) コース選択や科目選択の機会を活用し、生徒に説明・面談を (2) 授業アンケート 学校評価アンケート 行い、一人一人の強みを生かすことができる選択をさせる。 卒業前アンケート 等の結果 (3) プロジェクト参加状況や参加後の変容 (3) KCDプロジェクトを通して、地域と深く結びついた教育活 動を展開する。 (4) 生徒の進路状況、アンケート (4) インターンシップや郡上未来塾、上位学校見学会、先輩と語 卒業生と語る会での卒業生の言葉 る会などの取組みを通して、前向きな進路選択をする。 (5) 探究活動の発表や振り返り、生徒の変容 (5) 探究活動を通して生徒の総合的な学力の向上をめざす。 (6) 中学生、保護者、地域、外部識者の意見や感想、 (6) 学校の取組みの様子を地域や保護者に積極的に広報する。 北高NOWの発信頻度 9 取組状況・実践内容等 11 価 10 評価視点 評 (1) 本校カリキュラムに基づいた教員配置を要望している。教員 ①新入生1学年4クラス展開できるか D のスキルアップのための研究会を行っている。ICTは活用の段 ②生徒がコース・授業選択を後悔していな В D 階はクリアし次の段階に入っている。 いか。(卒業前アンケート) (2) コース登録・科目選択を通じて生徒の興味関心や進路希望を ③地域と関わるすべての活動において生徒 C D 明確化し、一人一人に合ったコース・科目選択を指導している。 の姿に成長があるか。 (3) 授業・総合的な探究の時間・課外活動などのKCD活動の中 В C D ④生徒が前向きに進路選択しているか で地域と結びついた活動を実施している。 В C ⑤総合的な探究の時間での学びが、それ D (4) 充実した進路関連行事が行われている。 以外の場面で活かされているか。 (5) 年間を通じた総合的な探究の時間の計画を実施している。 В C D ⑥継続的に発信できているかどうか。 (6) face book からホームページに移行し、発信している。 12 ○学校生活が安定しており、授業に楽しく参加できている生徒が増えている。 合 評
- 13 来年度に向けての改善方策案

果

- ・本校の強みである「面倒見のよさ」を発揮するためには教職員の質と数が不可欠であるため、1年次の4クラス展開や、 習熟度別授業、少人数授業を実現できるだけの教職員数を強く要望している。
- ・総合的な探究の時間や、教育課程外のKCD活動(探究活動)を推進するために、郡上市への協力をお願いしている。来 年度入学生から本格的に協力体制がはじまる。
- ・授業見学会、授業研究会をさらに充実したものにすることで、本校の強みを発揮できる「授業力」を身につける。ICT に関しては活用を促進する段階をおおむねクリアしており、より有効な活用方法を模索する。
- ・引き続きKCD活動を継続し、活動への参加による生徒の成長を引き出す。

○自分で選択したコース・科目に積極的に取り組んでいる。

▲生徒に対する説明や指導が年々伝わりにくくなっている。 ○授業等の教育課程内でのKCD活動は積極的に行われている。

▲教育課程外のKCD活動には郡上市などの協力をお願いしたい。 ○進路指導の結果自分の進路について前向きに考えられる生徒が多い ▲生徒の学校評価が全体的に微減している原因が把握しきれていない。

学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

価

D

(B

- ・学校と地域がつながることはよいことだが、先生方への負担が心配である。(回答:学校と地域がウインウインの関 係となるよう、学校にできること、地域にできることを明確にしている。地域の課題が自分(生徒)たちの問題だと考 えられるとよいと感じている)
- ・地域と関わることで、家庭だけでは得られない他人からの期待や自己有用感が得られるのではないか。

岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

1 自己評価

_1 =				
1 学校:	教育目標		かで、次の教育目標の達成に とともに、創造的思考力を育 不撓不屈」(校訓)の精神を 字を守り、正しい行動ができ 業業観を身に付け、すすんで 人間を尊重する精神を育成す 惟し進めるなかで、中学校と かな心の育成」を図る。	努める。 成する。 育成する。 る能力と態度を育成する。 自己実現を図る態度を育成 る。 のさまざまな交流を通して
2 スクー	ール・ポリシー	『育 たい生徒 像』 で たいポリシー (GP) 「不 たいポリシー (GP) 「不 持って たいポリシー 未 で はっした といった は かった は かった 生 に かった し に い に かった し に かった し に い に い に い に い に い に い に い に い に い に		

3	評価する領域・分野	◇ 学習指導
		 ○保護者15 教員は、授業をとおして、学力が向上するように指導している。 70.7→67.9→70.4 ○保護者19 学校は、授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている。65.3→62.5→67.8 ○保護者31 学校は、基礎学力の定着を図る取組に積極的である。66.2→64.2→68.4 保護者の評価は維持されている。 ▲生徒7 熱心に学習指導・生徒指導に取り組んでいる先生が多い。92.5→92.6→88.1
4	現状の分析	▲生徒8 専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 89.0→90.4→79.2 ▲生徒10 授業の教え方や説明がわかりやすい先生が多い。88.5→90.4→79.2 ▲生徒15 本校の先生は授業や家庭学習への指導・支援を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている 79.7→80.8→76.5 ▲生徒16 本校は、基礎学力の定着を図る取組に積極的である。 90.7→89.3→84.2 現在の生徒は入学前から本校に対するイメージが良く、入学後のギャップによる高評価が得られにくくなっている。「面倒見がよい」という期待に応えきれていない可能性がある。
5	学校の抱える課題	◇生徒の学校評価が微減している原因が把握しきれていない。◇常に基礎学力の向上を目指して活動し続けなければならない。
6	今年度の具体的かつ明確な 重点目標	(1)基本的な生活習慣と授業規律を確立し、主体的に学ぶ「学習する北高生」を育成する。 <i>(基本的生活習慣、授業規律の確立)</i> (2)到達目標を提示し、ICT機器を活用するなど主体的に学べる環境整備を整えて「分かる授業」を展開する。 <i>(授業力の向上・授業改善)</i> (3)コース・類型の特色をとらえ、生徒が意欲的に学習に取り組み、自己肯定感を高められる教育活動を長期的な見通しをもって実施する。 <i>(自己肯定感の育成)</i> (4)「自学自習ノート」「土曜講座」「各種補習」「各教科からの課題(宿題)」など、多

		たより基礎学力の定着と学習習慣の定着を図	
	力を身に着けさせる		
7 目標の達成に必要な具体的な		8 達成度の判断・判定基準ある	
(1)生徒に授業計画・評価規準を提示し	、日々の授業を基軸とし	(1) (2) 授業アンケート 学校評価アン	ケート
た規律ある学びのスタイルを確立する。			
(2)「授業が分かるから楽しい」という	好循環のをつくり、主体	(3)授業アンケート・学校評価アンケート	の確実な実施と回答率の
的で深い学びにつながる授業を行う。		向上.	
(3) 生徒による授業評価(年2回)と学	 校評価チングートを実施	(4) ニーズにあった研修会・研究会の実施	<u> </u>
し、授業改善につなげる。	ープナール・フ	(5)資格取得、検定合格、進路実績、土曜	ដ講座実施 スタディサプ
(4) 研修会や研究会を実施し、スキルア (5) コースの特性に応じ、資格取得・検		リの活用	
目指して努力できる生徒を育成する。	た 一 俗・ 上 椒 子 仪 一 俗 で		
(6) 自学自習ノートを主軸とし、家庭学·	翌の翌暦ルを推准する	(6) 自学自習ノートの継続指導	
(7)長期休暇課題を生徒が取り組みたく		(7) 未提出者を限りなく減らず	
提出に対して、提出できるよう各学年と		(7) 不促山有を成りなく減りす	
する。	E1400 (44/4) 73 (164)		
9 取組状況・実践内容等		10 評価視点	
(1) 本校では授業を中心とした学習が最	優先であるという共涌理	①アンケートの該当項目の値の向上	(A) B C D
解ができている。	2,1 11, 0 0 1 7, 10.2		
(2)「わかる授業」のための教員同士の	情報交流が積極的に行わ	② ③多様な授業スタイルの導入	A B C D
れている。支援員による個別支援が行わ	れている。		A B C D
(3)授業評価に基づいた授業スタイルの	•		Q
いる。	ALD DEPOSIT TO THE SECOND	④ ①②③と同じ	(A) B C D
(4) 有意義な見学会や研究会が行われて	いる。	⑤ 資格取得、検定合格、進路実績の向上	A B C D A B C D
(5) 従前どおり積極的に育成を図ってい	-	土曜講座の実施 スタディサプリ活用	
(0) 展別でもの列展歴史所に自身をと回ってい	₩	率の向上	
(6) ノートだけにこだわらず教材やスタ [、]	ディサプリかどを活田す	⑥ アンケートの該当項目の値の向上	ABCD
る取組が行われている。	/ 1 / / / G & C & HI/II /		
(7) 未提出のまま放置しない指導がきめ	細かく行われている	⑦ 未提出者の減少	(A) B C D
(1) 不促出のよる放画しない指導がでめ	业地 2.4.4.1 4.24 0. C.4.、20°	① 不促出有 0 igg	
12 ○本校では授業を中心とした	た学習活動が最優先	であるという共通認識を形成する	
成しことができた。	⊂」日旧初// 双度//		総合評価
果 ○教員同士の研鑽により積	面的な授業改業が行	bh.t-	
		参加による有意義な授業見学会や	A B C D
課 研究会を実施することが		少別による 日心我は以木九 1五 (
	-	掌座など積極的に取り組むことが	
できた。	只作、"厌儿、二唯时	が上、など、資産はこれが、外に行っている。	
○未提出の場合の出させき	ス均道ができた		
▲学習時間の増加や家庭学		が建っている	
▲指導が困難な生徒や個別対			
13 来年度に向けての改善方策案		なく多国はなんへい。	
		ぐに後退するため、継続的に取り	4日よ ₀
・教員の負担減を模索する必要が			小江 ←7 ○
	-	ながら多様なスタイルを模索する	
・考査のありかたや課題・宿題の			0
プロックのソカルに下味恩・110回り	// 0/ 7 // で HM 例 9	る 写効に 木 く v · る。	

II 学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

- ・タブレットの導入によって、先生方の負担が増えることが心配である。 (回答:アプリの活用によって、印刷や提出集計などの業務が軽減されている。)
- ・郡上北高への期待が上がっている中で、幅広い能力差に対応した学習支援を補償するために、現在配置の特別支援教育支援員は必要である。同時に、先生方にも、現在の学習指導を続けて欲しい。
- ・郡上北高で使用している手帳の活用に関しては、以前の自分を振り返るという意味で大切なことだと 思う。

岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

I 自己評価

1	日 二 許 1四	1		
		生徒一人ひとりを大切にしたん		
		目指し、日々の教育実践のなる		
		(1)基礎学力の定着を図る。		
		(2)体力・気力を養い、「フ		
۱,	兴松林大口擂	(3)礼儀を重んじ、社会秩序		
1	学校教育目標	(4)個性をのばし、正しい耳	職業観を身に付け、すすんで	自己実現を図る態度を育成
		する。		
		(5)郷土や祖先を敬愛し、/		-
		(6)連携型中高一貫教育を打	惟し進めるなかで、中学校と	のさまざまな交流を通して
		「学力の向上」と「豊木	かな心の育成」を図る。	
		『育てたい生徒像』	『生徒をどう育てるか』	『どんな生徒を待っているか』
		グラデュエーション・ポリシー (G P)	カリキュラム・ポリシー (CP)	アドミッション・ポリシー (AP)
			基礎学力を確実に育む	・自ら学び、自ら考え、
		切り拓く社会人」	授業の推進	主体的に行動しようと
		・自分のよさや可能性を知	・自己実現への目標をも	する生徒
		り、生涯を通して自らを	ち、主体的に学べる学	・多様な考えを取り入れ
		高め続ける生徒	習環境の整備	ものの見方や考え方を
		・他者を尊重し、多様な人	・自他の考えを認め合う	広げようとする生徒
		々と協働できる生徒	姿勢を身に付け、新た	・地域活動に参加して、
2	スクール・ポリシー	・持続可能な社会の創り手	な価値を生む力を育成	学んだことを実社会で
		となれる課題解決能力を	するため、協働的な学	活かそうとする生徒
		もった生徒	習活動の工夫	
		·	ソーシャルスキル、課	
			題解決能力、進路目標	
			を実現する力を養うた	
			め、郡上市を学びの場	
			とした探究的な学びや	
			実社会に即した学びの	
			推進	

3	評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
4	現状の分析	的評価な評価を受いけるよう、しついじめ対応に関し護者からは「E を	の指導に対しては、大半の生徒、保護者の方に肯定けることができた。「E わからない」を減らしてかりと活動をアピールしていきたい。 ては、生徒の役 9割が高い評価をしている一方、保わからない」が 3割を占めている。本校のいじめ対しみを保護者の方にもっとアピールする必要があるとは、6割の保護者の方から高評価をしていただいた。
5	学校の抱える課題		行為に関しては非常に少ないが、いじめ・情報モラ 導の中心事案となっている。
6	今年度の具体的かつ明確な 重点目標	・基本的生活習慣を 来における自己実 ・集団の一員として	域を支える人材を育成する。 身につけ、高校生活に目的意識をもち、生徒自ら将 現を図っていくための自己指導能力育成をする。 規則やマナーを守り、仲間に対する思いやりの気持 ある行動がとれる生徒の育成に努める。
7	目標の達成に必要な具体的な	は取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
()	1)登校時やSHR・授業時についての指導 2)規範意識の醸成と授業規行 3)交通安全意識の確立 4)いじめの防止体制の確立 5)不登校生徒に対してのサス	書の確立	 (1)身だしなみ指導(年間5回を予定) (2)生活アンケート・特別指導・いじめアンケート(いじめ重大事案の未然防止) (3)登校指導での生徒の様子・啓蒙活動(MSL) (4)いじめアンケート・担任(SC)との教育相談(5)教育相談体制の充実(人数の確保など)

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11	評	価	
・全職員の協力の下、毎朝の登校指導を実施した。	①生徒の様子に変化はないかを	Α	В	С	D
職員から声かけ(挨拶)を交わすとともに、生徒	毎朝確認する。				
の様子(体調・誰と登校しているか・身だしなみ	・挨拶の様子(体調の確認)				
)を日頃から確認をし、常時指導を行った。	・正しい身だしなみで登校して				
	いるか。				
	・時間を守り、遅刻をしないで				
	登校しているか。				
・「高校生活に関するルールとマナー」を一覧にし	②服装や頭髪規などの身だしな	Α	В	С	D
て各クラスに掲示し、身だしなみ指導や全校集会	み、授業規律、校内でのルー				
のたびにルールを守る大切さの話をした。また、	ル(スマホなど)など、高校				
「生徒心得」を配布、学校Webページに掲載し	生活においてのルールやマナ				
て周知を図った。	一が守れたか。				
・MSリーダーズを中心とした交通安全啓発活動を	③交通ルールをきちんと守って	Α	В	С	D
本校で4回、校外で2回実施した。	いるか。呼びかけはできたか				
	の担手の支担にか マギミ 甲		П		Ъ
・生徒の悩みなどを把握するため、教育相談週間を		Α	В	С	D
年2回実施した。	いやりの気持ちをもって仲間 と接することができるか。				
・いじめに関するアンケート年3回、心のアンケー	と抜りることができるが。				
トを年3回実施し、生徒の悩みなどを把握して、 面談・カウンセリングを実施した					
・SOSの出し方教育を1年生に対して実施した。					
・いじめ防止講話、人権講話を実施した。					
・定期的にSCに不安を抱えた生徒のカウンセリンク					
をお願いした。					
12 ○身だしなみをはじめとした学校ルールの遵守	<u> </u>				
成 HR授業における担任・教科担任の細やかな批		総	合	評	価
果しうまれているように感じる。	1111-00 > (dede Bile 1 @) EVHWAY	///	Н	н	limi
・ ○交通安全については、MSリーダーズの活動	や生徒指導便りなどの啓蒙活動で	Α	В	С	D
課 全校が交通安全の意識をもっており、大きな					
題 ▲「自転車運転時におけるヘルメット着用の努					
いるがなかなか浸透しておらず、さらに呼び	かけをしていく予定である。				
▲情報モラルに関する問題が、毎年発生してい	るため、情報モラルに関する教育				
をさらに強化する必要がある。(SNSなどネ	ットをきっかけとしたいじめ案件				
も増加している)					
▲相手の気持ちを考えない言動や行動をきった					
発生している。内容については直接的な暴力					
への書き込みなど、相手を思いやる心の欠如から派生した事案がほとんどで					
ある。今後はさらに心を育成するための取り					
▲不登校など、学校生活につらさ感じているd	E徒に、支援を手厚くする必要が				
ある。					
13 来年度に向けての改善方策案					

- ・頭髪や服装など、その時代に応じたルールを考え、柔軟的に対応していく。
- ・自転車乗車時のヘルメット着用率を上げるように、呼びかけなどをさらに行っていく。
- ・情報モラル教育に関しては、来年度は早期に「児童ポルノ禁止法」も含め、SNSの使い方について 具体的な指導を郡上警察書に協力していただき実施する予定。
- ・「相手の気持ちを考える」生徒育成のため、SOSの出し方教育やいじめ防止講話、人権講話を実施 し、相談しやすい・声を出しやすい環境を作る。
- ・いじめを防止していくため、教育相談週間や各種アンケート時の面談を充実させ、生徒の悩み、困り 感を迅速に把握し対応する。
- ・職員が教育相談スキルを向上させる研修を実施する。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

- ・ネット被害については、情報が一度出てしまうと取返しのつかないことになるので、メンタルケアは 難しいことであるが生徒に寄り添って欲しい。
- ・自転車のヘルメット着用指導については、命の大切さを伝えながらもっと多くの呼びかけをして欲し ٧١°

岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

I 自己評価

	日 二 許 1四	1		
		生徒一人ひとりを大切にしたん		
		目指し、日々の教育実践のなる		
		(1)基礎学力の定着を図る。		
		(2)体力・気力を養い、「フ		
_	쓰나는 #L +도 ㅁ +프	(3)礼儀を重んじ、社会秩序	字を守り、正しい行動ができ	る能力と態度を育成する。
1	学校教育目標	(4)個性をのばし、正しい耳	職業観を身に付け、すすんで	自己実現を図る態度を育成
		する。		
		(5)郷土や祖先を敬愛し、/	人間を尊重する精神を育成す	る。
		(6)連携型中高一貫教育を持	雀し進めるなかで、中学校と	のさまざまな交流を通して
		「学力の向上」と「豊友	かな心の育成」を図る。	
		『育てたい生徒像』		『どんな生徒を待っているか』
		グラデュエーション・ポリシー (GP)		
		「不撓不屈の精神で未来を	・基礎学力を確実に育む	・自ら学び、自ら考え、
		切り拓く社会人	産業の推進	主体的に行動しようと
		・自分のよさや可能性を知	・自己実現への目標をも	する生徒
		り、生涯を通して自らを	ち、主体的に学べる学	・多様な考えを取り入れ
		高め続ける生徒	習環境の整備	ものの見方や考え方を
		・他者を尊重し、多様な人	・自他の考えを認め合う	広げようとする生徒
		々と協働できる生徒	姿勢を身に付け、新た	・地域活動に参加して、
2	スクール・ポリシー		な価値を生む力を育成	学んだことを実社会で
	<i>// // // // // // // // // // // // // </i>	となれる課題解決能力を	するため、協働的な学	活かそうとする生徒
				16かてリとりる生化
		もった生徒	習活動の工夫	
			・ソーシャルスキル、課	
			題解決能力、進路目標	
			を実現する力を養うた	
			め、郡上市を学びの場	
			とした探究的な学びや	
			実社会に即した学びの	
			推進	

3	評価する領域・分野	◇ 進路指導
4	現状の分析	【進路情報を示し、生徒の可能性を引き出す】 ○今年度、生徒は8割、保護者は6割弱肯定的な受け止めをしている ○保護者の肯定的受け止めは毎年徐々に増加傾向 ▲2年前と比べると生徒の肯定的受け止め方が減少 ▲生徒、保護者の1割は否定的な受け止めをしている 【将来の希望に沿った具体的な進路指導】 ○今年度、生徒は8割、保護者6割肯定的な受け止めをしている ▲2年前と比べると生徒の肯定的な受け止めが減少 ▲生徒4.3%、保護者は1割否定的な受け止めをしている
5	学校の抱える課題	【生徒に対して】 ○組織的な受験指導の必要性 ○生徒の受験状態を把握し、適切な指導体制をとる ○スタディサプリ、ノルティ手帳の活用が不十分 【保護者に対して】 ○必要に応じて保護者を含めた懇談実施が必要 ○進路情報発信の不足 【学校内】 ○進路状況情報共有の不足
6	今年度の具体的かつ明確な	・各学年・教科・分掌等と連携し、3年間を見通した1年次からの系統

重点目標 だった進路指導体制特に「HR活動」や「総合的な探究の時間」にお いてキャリア教育を計画的に取り上げ、生徒が主体的に進路学習をで きるような指導の工夫をする。 ・通常の授業における学習指導を通して、基礎学力の定着を図り、進路 実現に必要な学力保証を目指す。 ・キャリアカウンセリングを推進し、就職・進学ともに進路希望100% の実現を図る。その際、適宜必要な情報を収集・共有できる体制を維 持する。 ・生徒一人ひとりが自己の能力や適性を理解し、将来の夢や希望の実現 に向けて主体的に進路選択ができるよう、ガイダンスの機能を充実す ・生徒・保護者に適宜進路情報を提供し、早期からの進路意識の啓発に 努める。 ・就業にかかわる体験的な学習や外部の教育力を活用した教育活動を通 して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 7 目標の達成に必要な具体的な取組 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 全学年における進路ガイダンスの実施 (1) 生徒の感想やアンケート (2) 2年全員参加のインターンシップの実施 (2)巡回指導のなかでの観察や感想 (3) 各種検査、学力テスト、進学補習の実施 (3) 学力テストの結果、3年の進路実現状況 10 評価視点 9 取組状況・実践内容等 11 評 価 В ・全学年進路ガイダンスを3年間見通したもので実 ①自己の進路に対して、具体的 C D 施ができた。 なイメージを抱くことができ ・インターンシップは全員参加し実施することがで たか。 ②働くことの厳しさを具体的に A B C D きた。 各種検査、学力テスト、進学補習を実施できてい 感じることができたか。 ③就職内定率、入学試験合格率 В С D 12 〇ガイダンスを充実し、実施することができた。 成 |▲実施内容の精選、時期を考えることが必要。 合 評 総 価 ○適性検査を活用する中で、能力や適性の理解適性検査の活用 A B C ▲事後の振り返りが不十分。 D 生徒へはガイダンスなどを含めて進路情報を提供している ○保護者へは、PTA総会の際に3年生の保護者へは情報提供できている ▲1,2年生の保護者や、3年生学年PTA欠席者への情報提供ができていな V ▲学校全体に職員会議にて共通理解を図っているが、まだまだ不足している ○進路希望に対する指導を実施し、ほぼ生徒の希望を叶えることができた。 ▲学校全体の指導体制を検討し、より向上させる必要がある。 13 来年度に向けての改善方策案 ○行事の精選 各学年より意見を聞き、今年度の進路行事の現状を把握し、行事の有無、実施時期を検討する

○適性検査の精選

適性検査の実施状況を把握し、種類を見直し、厳選する。また、活用方法も検討する。

- ○スタディーサプリの効果的な活用法の研究
- ○保護者への情報提供
 - 進路状況の便りを定期的に配布。進路の手引きを1年生にも配布。
- ○進学・就職共に、指導体制を再構築し、生徒の希望を叶えるよりよい指導を考案する。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

- ・進路行事のガイダンスが自分ごとになっていないために、自身に適切な情報が自分のものとなってい ない。例えば、「卒業生と語る会」では卒業生がせきららな自分を語ることで、生徒たち自身の心に 落ちていくのではないか。そうした心に訴えるアプローチがあるとよい。
- ・日頃の学習指導に対する厳しさも必要である。

岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

I 自己評価

		生徒一人ひとりを大切にした 目指し、日々の教育実践のなた (1)基礎学力の定着を図る。 (2)体力・気力を養い、「 ² (3)礼儀を重んじ、社会秩序	かで、次の教育目標の達成に とともに、創造的思考力を育 下撓不屈」(校訓)の精神を	努める。 成する。 育成する。
1	学校教育目標	(4) 個性をのばし、正しい事する。(5) 郷土や祖先を敬愛し、か(6) 連携型中高一貫教育を持ち	職業観を身に付け、すすんで 人間を尊重する精神を育成す 惟し進めるなかで、中学校と	自己実現を図る態度を育成る。
		「学力の向上」と「豊々	かな心の育成」を図る。	
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー(GP) 「不撓不屈の精神で未来を切り拓く社会人」 ・自分のよさや可能性を知り、生涯を通して自らを高め続ける生徒 ・他者を尊重し、多様な人々と協働できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	

3	評価する領域・分野	◇ 特別活動	
4	現状の分析	・ホームルーム活動に意義を感じている生徒77% ・生徒会活動が活発であると感じている生徒73% ・本校では、ボランティア活動の大切さを教える 提供していると感じている生徒81%強 ・本校は、学校行事に積極的に参加し自主的に取 を進めていると感じている生徒85%	%強 と同時にその 機会を
5	学校の抱える課題	◇HR活動、生徒会活動を通して、生徒の課題解診 ルールを守りながら最大限楽しい行事を実現する 行事等を通して地域に開かれた学校づくりを推過	5.
6	今年度の具体的かつ明確な 重点目標	・職員会議等で規定やルールを共有し、徹底する ・つつじが丘祭準備のためのHR活動時間を確保 ・行事を地域に開くため全職員の力を借りる。 ・特別活動部が仲介し、地域行事ボランティアな 呼びかける。	する。
	目標の達成に必要な具体的な 1)生徒の自発的な活動を重複 2)活動の優先順位を示す。		
(;	3) つつじが丘祭の地域開放を	検討する。 (3) どれだけ地域開放できた	とか把握する。
	4)地域ボランティアへの参加		
9 • 作	_ 取組状況・実践内容等 f事において生徒の自主的な活	10 評価視点 動を優先した。 ①生徒自身と教員の評価	11 評 価 A B C D

· 生	徒議会で予算について議論することができた					
• 有	・有志団体を特活部で管轄、指導することで、トラ					
ブルを減らすことができた。						
・文	・文化祭を保護者と学校評議員の他、白鳥中学校の2外部の方の評価			В	С	D
生徒	生徒へも開放できた。			_		
• 地	・地域活動や地域ボランティアに参加する生徒が ③生徒と地域の満足度			(B)	С	D
昨年より減少した。						
12	○生徒の自発的な活動による充実した行事が実現した。					
成	ルールを守ることもできた。			合	評	価
果	○つつじが丘祭を保護者と学校運営協議会委員の方の他、白鳥中学校の2年生に					
•	見てもらうことができた。北高の良さを見ていただけたのではないか。				С	D
課	▲積極的に地域活動や地域ボランティアに参加する生徒が相当数いて、地域の方					
題	からもよい評価をいただいた一方で、ボランティアにあまり関心を示さない生徒					
	もいた。次年度は募集のかけ方などにさらに工夫をしていきたい。					

13 来年度に向けての改善方策案

- ・生徒の自主性を涵養するために生徒議会や生徒総会を議論や合意形成の場として機能させる。
- ・学校外の地域活動や、地域ボランティアを部活動と同様に重視し、生徒を積極的に地域に送り出す。
- ・大学入試のあり方が志望動機重視に変わっていっている現状がある。それを考えると生徒会などの特別活動やボランティア活動が将来の目標設定につながるものであることを生徒に認識してもらうことも必要ではないかと思う。
- ・今年度は中学生につつじが丘祭を見てもらえたので、それが志望者増につながったか検証し、つつじが丘祭公開のあり方をさらに検討する。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

- ・主体性が必要な世の中で、郡上北高の生徒は公民館活動を素直に喜んでやってくれる。情熱が出てくるとよい。
- ・学校行事やボランティアでのグループ交流はもちろんのこと、その後の雑談によって人間関係をより 深く構築する能力を身に付けることができるのはないか。
- ・自分はこうしてみたいと提案できる機会や思いを伝える話し合いの場面が必要である。

岐阜県立郡上北高等学校 学校番号 31

I 自己評価

_1 =	二 評 1世	1		
1 学校:	教育目標		かで、次の教育目標の達成に とともに、創造的思考力を育 下撓不屈」(校訓)の精神を 字を守り、正しい行動ができ 業業観を身に付け、すすんで 人間を尊重する精神を育成す 惟し進めるなかで、中学校と かな心の育成」を図る。	努める。 成する。 育成する。 る能力と態度を育成する。 自己実現を図る態度を育成 る。 のさまざまな交流を通して
2 スクー	-ル・ポリシー	『育 エーション・ポリシー (GP) 「有 エーション・ポリシー (GP) 「不撓不屈の精神では会人」・ は会別で表現の分のとはない。 ののでは、 多様のののでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 多様のでは、 またのでは、 ま		

3	評価する領域・分野	◇ 保健・安全管理	
4	現状の分析	かつスムーズに行えている ▲学校内での安全教育や健 わっていないという意見も	任または保健室と家庭との連絡体制が迅速、。 。 :康保持、危機管理等の取り組みが、家庭に伝 聞こえる。様々な機会や手段を利用し、保護 う取り組んでいかなければならない。
5	学校の抱える課題	◇生徒にとって学校が安全 員の安全意識を高めていか	たかつ安心に過ごせる場所であるために、全職 いなければいけない。
6	今年度の具体的かつ明確な 重点目標	•	- 7 3
7	日煙の達成に必要な目体的が	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	成度の判断・判定其進なるいは指標

| 7 目標の達成に必要な具体的な取組

- (1) 心身の健康問題を抱える生徒の情報を共有し、組織で対応していく体制を整える。
- (2) 感染症予防対策を組織的に実施する。
- (3)毎月末に安全点検を行い、危険箇所には安全対策を講じる。
- (4) 非常変災時の安全な避難誘導、安全確保に 備えた訓練を実施する。

8 達成度の判断・判定基準あるいは指標

- (1) 関係者で連携を図り、保護者と連絡をとりながら支援して、状況によっては外部の専門家等にも相談する体制があるか。
- (2)毎日の健康観察(出欠状況確認)を実施し、感染症対策を確認する。
- (3) 安全点検報告の実施。校内清掃を徹底し、清掃活動を通して危険箇所を把握する。
- (4) 命を守る訓練を通して、生徒と職員が適切な 行動を理解し、迅速かつ的確に行動をとることがで きるか確認する。非常変災時に安全に帰宅できてい るか確認する。

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11	評		
①心身の健康問題を抱える生徒の情報共有を行う。	①保護者から、学校に連絡や相	Α	В	(\mathbb{C})	D
状況によっては、ケース会議を開きサポート体制を	談を行ってもらえるか。学校の				
とる。	サポート体制を理解し、協力して				
	頂けるか。				
②生徒が体調不良や怪我をした際、迅速に対応する	②保護者に丁寧に連絡や説明を	(A)	В	С	D
。緊急性のある場合は、養護教諭が付き添い救急搬	する時、学校の対応に理解を示				
送し、家庭との連携を図る。	し、協力的な対応をしてくれる				
	か。				
③毎日の健康観察を行い、感染対対策の呼びかけや	③日々の健康観察を努めている	Α	(B)	С	D
掲示をする。	か。感染対策が行われているか				
	定期的に確認する。				
④毎月、安全点検表をまとめ報告する。危険箇所に		(A)	В	С	D
おいては、修理、修繕し、安全を確保している。	期的な安全点検を行い、迅速な				
	対応をしているか。				
⑤命を守る訓練を年3回、非常変災時の帰宅確認の		Α	(B)	С	D
予行訓練等の安全教育を実施している。気象状況に	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				
応じて、組織的に生徒の安全を確保し帰宅や自宅待					
機をさせている。	か。災害時対策マニュアルを毎				
年更新しているか。					
	○近年、心身の健康問題が抱える生徒が増加している。保護者、関係職員と連				/
	携を図り対応することができた。			評	価
	●生徒に関して、組織的に対応する必要がある場面が見られたため、ケース会				-
	議や情報共有を図るなど、今後、改善しなければいけない。			С	D
	○新型コロナ感染症が第5類となり、インフルエンザなど感染症が増加した。				
	地域の感染状況を把握し、感染症対策を促すことができた。				
○毎月の安全点検を期日までにまとめ、対応することができた。また、清掃活動時に関している。					
	動時に職員が安全確認も行い、定期的な点検や迅速な修繕を行えた。 ○命を守る訓練において、今年度は、生徒へは非公開での実施を試みた。職員				
	・生徒が、どんな状況においても命を守ることを最優先し、安全確保させる訓練や手段を今後も検討し実施していかなければいけない。				

13 来年度に向けての改善方策案

- ・心に問題を抱える生徒が多く、教育相談係と連携を図り、ケース会議を充実させ、生徒が安心して学校生活を送る組織づくりをする。
- ・新型コロナ感染が第5類となったが、その他の感染症が広がりをみせている。地域の感染状況を把握し、事前に感染対策を確認しながら関係部署と連携を図る。
- ・いかなる場面においても、命を守ることを最優先し、安全確保できる組織としていきたい。職員は、常に「生徒への安全配慮義務」を忘れることなく教育活動を実施できるよう、様々な機会をとらえて働きかけ、職員の意識レベルを維持、向上していけるようにする。
- ・非常変災時における生徒の登下校、自宅待機の対応、安否確認、保護者への受け渡し等、家庭との連絡を行うことを基本として対応していく、組織作りをする必要がある。
- ・毎日の清掃活動や長期休暇前後の清掃活動、学年別の大掃除等を通して、職員・生徒が常に学校美化 に心掛けるような学校づくりをする

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日:令和6年2月7日

- ・感染症(コロナやインフル等)予防については、学校はもちろんのこと、小中学校と連携を図り、地域全体での取り組みが必要ではないか。
- ・正月の能登半島沖地震で改めて実感したが、地震は必ず起きるという意識を生徒たちに持たせる必要がある。